

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Timing of primary tooth eruption in infants observed by their parents

和文タイトル:

親が観察した乳幼児の乳歯萌出時期について

ユニットセンター(UC)等名:宮城ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名:Children

年:2023

DOI:10.3390/children10111730

筆頭著者名:Mina Dodo

所属 UC 名:宮城ユニットセンター

目的:

乳歯の萌出時期は目に見える乳幼児の発育の指標である。これまでに乳幼児健診での歯科医による萌出時期の報告は行われてきたが、保護者の申告による時期の検討は報告されていない。本研究では、日常的に子どもの口腔内を観察する機会のある保護者の報告から乳歯の萌出時期について検討することを目的とした。

方法:

エコチル調査の追加調査として乳歯の萌出日に関する質問紙調査を実施した。3793名を対象とし、1歳6か月児 3527名及び3歳6か月児 2734名に質問票を送付し、1歳6か月児 2924名、3歳6か月児 2734名から回答を得た。このうち除外基準に該当しない1690名から萌出日の分析を行い、1440名の上顎乳中切歯、1198名の上顎乳側切歯、1617名の下顎乳中切歯、1091名の下顎乳側切歯萌出時期について、シグモイド曲線を作成して検討した。

結果:

上顎乳中切歯と上下顎乳側切歯では、過去の報告に比べて男女ともに萌出時期が早かった。また、下顎乳中切歯と上顎乳側切歯では、男児の方が女児よりも有意に萌出が早かった。一方、早産児と正産児では、暦月齢では萌出時期に差がなかったが、修正月齢では萌出時期が早産児で有意に早かった。

考察(研究の限界を含める):

研究は保護者の口腔内観察に基づいているため、乳歯の萌出時期が正確に特定・記録されていない可能性がある。しかし、本研究では、乳中切歯と乳側切歯のみを記述するよう保護者に求めた。これらの歯は見つけやすく、乳犬歯や乳臼歯よりも早く萌出すると報告されている。さらに、本研究は全国規模の大規模コホート研究の補助研究であるため、多数の保護者が調査に参加した。さらに、過去の報告や我々の臨床経験から、同じ日に5本以上の歯が萌出した、2回の調査で萌出時期が異なる、同じ顎で中切歯より側切歯の萌出が早いなど、誤答の可能性のあるものは除外した。したがって、本研究では、情報の正確性は確保できたと考えている。

結論:

保護者が観察した乳歯の萌出時期を調査した。本研究で作成したシグモイド曲線は、保護者・歯科医師・医療従事者が子どもの歯の萌出時期を推定するのに役立つと考えられる。乳歯萌出時期の正確な推定は、小児の神経学的健全性、身体発育、栄養状態、社会経済状態、または基礎疾患を評価するために重要である。